

平成 11 年の病害虫の発生と防除

農林水産省農産園芸局植物防疫課

I 夏期間の気象経過の概要と水稻の作柄

1 夏期間の気象経過

本年は、全国的な暖冬に始まり、春先以降も平均気温は高く推移した。この期間、気温が低かったのは5月の南西諸島のみで、北日本で3か月連続平年並み、その他地域は高くなった。特に、5月以降の日本列島は、高気圧に覆われ晴れの日が続いたため、水稻、果樹をはじめとした農作物の生育はおおむね順調に進んだ。

この高温傾向は、夏期間（6～8月）に入っても続いた。梅雨入りは、6月7日までに最大1週間早く梅雨入りしたものの、オホーツク海高気圧は現れても一時的で、6月中旬までは北・東日本を中心に大陸の乾いた高気圧に覆われ、梅雨前線は南岸から離れて停滞したため、晴れの日が続く気温の高い状態が続いた。梅雨前線は、6月下旬になると活発化し、西日本では動きの遅い低気圧の影響で7月上旬まで大雨が続いた。特に6月29～30日の大雨では、福岡市、広島県、兵庫県南部で

河川の氾濫や浸水等大きな被害が発生した。北・東日本では7月中旬に弱い熱帯低気圧等の影響で大雨となった。

梅雨明けは、7月後半から太平洋高気圧が南東海上から勢力を強め、7月26日までにほぼ平年並みに明けた。その後は、太平洋高気圧が例年より北に偏り、西日本への張り出しが弱かったため、北日本では暑い日が続く一方、太平洋高気圧の縁に当たった西日本では、曇りや雨の日も多く大雨もたびたび発生し、農作物の冠水・浸水等の被害が発生した。

9月に入ると、台風の上陸が続いた。台風第16号（9/14～15）は、水稻の倒伏等の被害をもたらし、収穫作業が遅れることとなった。特に九州地方では前線の活動が活発化し、高温・多湿状態が続いたため、病害の発生が懸念された。台風第18号（9/22～25）は、東日本の太平洋側を除きほぼ日本列島を縦断する形となったため、西日本、東日本日本海側、北日本において水稻の倒伏、果樹の落果をはじめ農作物にも多くの被害をもたら

表-1 平成 11 年梅雨入り・明けの状況

地域名	梅 雨 入 り		梅 雨 明 け		梅雨の時期の降水量 (カッコ内は注参照)
	今 年	平 年	今 年	平 年	
沖 縄	5月9日頃	5月11日頃	6月23日頃	6月23日頃	那 覇 288.0 mm (413.8 mm)
奄 美	5月9日頃	5月11日頃	6月23日頃	6月28日頃	名 瀬 815.0 (551.3)
九州南部	6月2日頃	6月2日頃	7月23日頃	7月13日頃	鹿児島 691.0 (634.2)
九州北部	6月2日頃	6月8日頃	7月22日頃	7月18日頃	福 岡 570.5 (458.1)
四 国	6月2日頃	6月6日頃	7月22日頃	7月16日頃	高 松 325.0 (268.6)
中 国	6月2日頃	6月8日頃	7月22日頃	7月19日頃	広 島 506.0 (412.2)
近 畿	6月3日頃	6月8日頃	7月22日頃	7月19日頃	大 阪 507.0 (332.5)
東 海	6月15日頃	6月9日頃	7月22日頃	7月18日頃	名古屋 373.0 (309.5)
関東甲信	6月17日頃	6月9日頃	7月23日頃	7月20日頃	東 京 516.0 (206.1)
北 陸	6月15日頃	6月12日頃	7月24日頃	7月22日頃	新 潟 310.0 (235.2)
東南北部	6月16日頃	6月12日頃	7月24日頃	7月23日頃	仙 台 482.5 (204.8)
東北北部	6月16日頃	6月14日頃	7月26日頃	7月26日頃	青 森 136.5 (127.8)

¹⁾：梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間がある。その遷移期間のおおむね中日をもって「*日頃」と表現した。

²⁾：梅雨の時期の降水量は、入りの時期の遷移期間のおおむね中日から明けの時期の遷移期間のおおむね中日の前日までの降水量の合計値を示した。カッコ内は比較のための降水量で、同時期の日別平滑年値の合計値を示した。なお、広島は1988～96年までの累年平均値である。

Occurrence of Pests and Diseases and Their Control in 1999 in Japan. By Plant Protection Division, Agricultural Production Bureau, MAFF

(キーワード：平成 11 年，病害虫，発生動向)

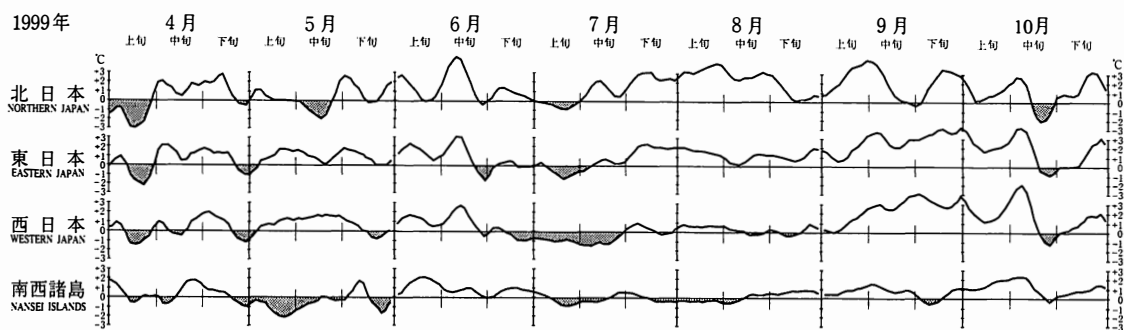


図-1 地域平均気温年差の5日移動平均時系列

した。

2 水稲の作柄

平成 11 年産の作柄は、10 月 15 日現在で全国平均 101 の平年並みとなった。

九州を中心に大きな被害を出した台風 18 号の影響で、作況指数は 9 月発表より 1 ポイント下がった。

地域別では、北海道、東北、関東・東山、及び東海が 103、北陸及び近畿が 102 の「やや良」、中国及び四国が 99 の「平年並」、沖縄が 98 の「やや不良」、九州が 87 の「著しい不良」であった。このため、予想収穫量は 918 万 1 千 t で前年産に比べ 24 万 2 千 t (3%) 増加することが見込まれる。

II 病虫害の発生の概要

1 水稲

春先以降全国的に高温傾向で、夏期間 (6~8 月) に入ってもこの傾向は続いたことから、水稲をはじめとした農作物の生育は軟弱徒長傾向であったこと、昨年北日本で梅雨明けが特定されない等不順な天候が続き、葉いもちをはじめ病害が全国的に多発し伝染源が豊富であったことから、早期多発が懸念された。しかしながら、梅雨入り後も広い地域で天候に恵まれ、かつ昨年の多発により生産現場での防除意欲も高かったこともあいまって、葉いもちの発生は著しく抑えられ、10 月 1 日現在葉いもち発生面積は約 45 万 ha (全作付けの約 25%) で、ここ 10 年間で最少となった。また、いもち病に関する注意報は、9 県から延べ 11 件 (昨年は 40 県から延べ 77 件) 発表され、同じくここ 10 年間で最少数となった。

害虫では、ウンカの飛来が梅雨期間に数次にわたり確認されたものの、その飛来数自体少なく、予防剤の普及もあり「平年並み」以下の発生となった。本年、ウンカに関する注意報はトビイロウンカ 1 件のみとなった (昨年: 警報 7, 注意報 16)。

一方、斑点米カメムシ類が全国的に多発生となった。

斑点米カメムシ類は、春先からの高温による著しい増殖が原因と考えられ、飛来源である休耕地の増加に対応し要防除水準の見直しが進んでいないことも、難防除害虫となっている原因ではないかと考えられている。また、農水省が公表した水稲の作柄概況 (10 月 25 日) の中でも、各地域でカメムシによる被害の発生が認められる旨の報告がなされている。

2 その他普通作

ムギ類で、赤かび病について 3~4 月、東・西日本で一時日照不足となったこと、昨年全国的に多発し伝染源が豊富であったことから、注意報が 8 県から延べ 9 件発表されたが、5 月以降好天が続いたことからその発生は抑えられた。

ダイズでは、ハスモンヨトウが夏期間に高温傾向が続いたことから、全国で「やや多」の発生となった。

3 果樹及び茶

昨年各地で発生が目立った病害については、7 月上旬の梅雨前線活発化に伴うカンキツかいよう病の注意報 2 件のみ (昨年はカンキツかいよう病、ナシ黒斑病: 合計で警報 2 件、注意報 23 件) となり、梅雨は平年並みに明けたことから、その発生は抑えられた。

害虫では、平成 8 年に全国で大発生した果樹カメムシ類が、新成虫が現れる 8 月以降、カキ等を中心に関東及び九州でやや多となった。

4 野菜及び花き

ダイズ同様、夏期の高温によりハスモンヨトウの発生が多かった。その他、コナガの北日本での発生が例年より早く、注意報が 7 件発表され、一部地域で発生が目立った。

III 病虫害防除事業

1 ウリミバエ

奄美群島: 前年に引き続き奄美群島全域において侵入

表-2 病害虫別発生・防除状況(平成 11 年 10 月 1 日現在)

(単位:千 ha, %)

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
(イネ)				
葉いもち	平年並以下	452(59)	1,727(109)	ここ 10 年で最少発生面積
穂いもち	平年並以下, 関東・西日本の一部やや多	337(61)	2,015(92)	
紋枯病	東・西日本の一部でやや多〜多	718(97)	949(83)	
白葉枯病	平年並以下, 東海の一部やや多	16(80)	139(90)	
縞葉枯病	東海及び九州の一部でやや多〜多	41(105)	—	
ばか苗病	関東, 東海及び四国の一部でやや多	20(125)	1,392(102)	
もみ枯細菌病	平年並以下	56(72)	120(103)	
稲こうじ病	平年並以下	104(65)	58(86)	
ニカメイガ	平年並以下	164(72)	773(103)	
セジロウンカ	近畿, 四国及び九州の一部でやや多	677(83)	1,105(90)	昨年は全国的に多発した
トビイロウンカ	少ない	81(20)	817(76)	
ヒメトビウンカ	関東, 東海及び西日本の一部でやや多	577(98)	1,069(77)	
ツマグロヨコバイ	東日本の一部では多の地域があり	715(97)	973(89)	
イネドロオイムシ	東海, 中国及び四国の一部でやや多	275(89)	743(88)	春先からの高温傾向等
斑点米カメムシ類	全国的にやや多〜多	481(148)	1,453(102)	
コブノメイガ	関東及び西日本の一部ではやや多〜多	330(84)	429(88)	
イネミズゾウムシ	平年並以下	855(88)	939(93)	
(ムギ類)				
さび病類	北日本の一部でやや多〜多	49(169)	193(689)	種子消毒の不徹底
斑葉病	西日本の一部でやや多〜多	7(88)	7(54)	
うどんこ病	中国, 九州の一部でやや多	57(62)	190(88)	
赤かび病	平年並以下	63(46)	243(84)	
雪腐病	北日本でやや多〜多	62(181)	96(62)	根雪が早かった
(ジャガイモ)				
疫病	北日本で少ない, その他平年並	18(46)	370(97)	
(大豆)				
紫斑病	平年並以下	2(67)	41(105)	
ハスモンヨトウ		39(108)	41(54)	
ハダニ類		11(122)	2(67)	
アブラムシ類		27(104)	41(76)	
(カンキツ類)				
そうか病	平年並以下	15(71)	88(95)	昨年の病害は多発した 、
黒点病	中国四国及び九州の一部で多	71(99)	279(98)	
かいよう病	平年並以下	21(84)	98(91)	
ヤノネカイガラムシ	平年並	5(100)	73(89)	
ミカンハダニ	平年並	64(97)	248(88)	
(リンゴ)				
腐らん病	北日本でやや多〜多	8(114)	103(98)	病斑削り取りの不徹底等
モニリア病	平年並	1(100)	63(79)	
斑点落葉病	北日本及び関東の一部でやや多〜多	24(109)	383(100)	
黒星病	平年並以下	4(57)	247(85)	
ハマキムシ類	東北及び北陸の一部でやや多	5(166)	166(88)	
ハダニ類	平年並	12(100)	134(102)	
(ナシ)				
黒斑病	中国の一部でやや多〜多	3(100)	71(97)	病害は昨年多発した
黒星病	北日本の一部では多	5(100)	137(98)	
ナシヒメシンクイ	関東及び中国でやや多	1(100)	54(98)	
ハダニ類	平年並	7(88)	46(94)	
アブラムシ類	平年並	10(100)	88(187)	

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
(モモ)				
せん孔細菌病	東北、関東及び東海の一部では多	4(133)	38(109)	
灰星病	平年並以下	1(50)	39(110)	
(ブドウ)				
晩腐病	平年並	2(100)	47(87)	
べと病	平年並以下	6(75)	64(89)	
灰色かび病	〃	1(50)	29(85)	
(カキ)				
うどんこ病	平年並以下	9(90)	50(96)	
落葉病類	〃	5(71)	56(112)	
カキクダアザミウマ	〃	3(75)	19(90)	
(果樹共通)				
カメムシ類 ¹⁾	関東及び中国四国の一部でやや多～多	15(88)	115(149)	
(チャ)				
炭そ病	平年並、関東、九州の一部でやや多	36(106)	105(98)	
チャノコカクモンハマキ	関東で多の地域多い	16(133)	279(393)	
カンザワハダニ	〃	32(139)	79(110)	
(キュウリ)				
べと病	平年並	7(100)	58(97)	
うどんこ病	〃	7(117)	49(100)	
(スイカ)				
つる枯病	北陸でやや多	4(133)	39(89)	
(ハクサイ)				
軟腐病	秋冬でやや多～多	5(167)	27(87)	台風通過で急増
白斑病	平年並以下	3(60)	23(79)	
(キャベツ)				
黒腐病	夏秋以降やや多～多	7(100)	32(103)	台風通過で急増
コナガ	北日本でやや多～多	15(100)	69(87)	飛来早く、少雨
(タマネギ)				
べと病	関東、近畿及び四国の一部でやや多	2(100)	21(105)	
(野菜共通)				
疫病 ²⁾	平年並以下	4(67)	55(75)	
灰色かび病 ³⁾	〃	6(67)	72(90)	
アブラムシ類 ⁴⁾	平年並	52(108)	270(91)	
ハダニ類 ⁵⁾	〃	17(106)	70(92)	
ハスモンヨトウ ⁶⁾	広い地域でやや多～多	10(111)	37(93)	
ヨトウガ ⁷⁾	平年並	11(92)	77(91)	
(キク)				
白さび病	平年並	1(100)	14(108)	平成 10 年度から開始
アザミウマ類	東日本、近畿及び九州の一部でやや多	2(200)	11(157)	
アブラムシ類	平年並	1(100)	10(167)	

¹⁾: カンキツ、ナシ、カキ

²⁾: トマト、ピーマン、キュウリ、スイカ、タマネギ

³⁾: トマト、レタス、イチゴ

⁴⁾: トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、スイカ、ダイコン、ハクサイ、ネギ、レタス、ハウレンソウ、サトイモ、イチゴ

⁵⁾: ナス、スイカ、サトイモ、イチゴ

⁶⁾: ナス、レタス、サトイモ、イチゴ

⁷⁾: ハクサイ、キャベツ、ニンジン、ハウレンソウ

表-3 平成 11 年発生予察情報(警報・注意報・特殊報)の発表状況

(1) 警報・注意報(注:数字は発表月日。アンダーラインは警報)

(10月1日現在)

① 稲		葉いもち	穂いもち	ウンカ類	コブノ メイガ	斑点米 カメムシ	その他の病害虫
北 海 道		07/16					
東 北	青 森					08/04	
	秋 田		07/23			07/23	
関 東	茨 城	07/02					
	長 野	07/23					
北 陸	新 潟					07/12	
	富 山					07/28	
	石 川					07/22	
	福 井	06/30	07/15			07/13	
東 海	岐 阜					09/06	
	愛 知					07/30	
	三 重					07/22	
近 畿	滋 賀					07/15	
	京 都		08/11			08/03	
	大 阪					07/29	
中 国	鳥 取					07/29	
	島 根					07/23	
	岡 山					08/03	
	徳 島					08/06	
	愛 媛					07/13	
四 国	高 知			08/03 (トビイロウンカ)		08/23	
九 州	福 岡		08/25				09/14 紋枯病
	佐 賀					06/21	
	熊 本		08/06			06/23	
	大 分						
	宮 崎				07/26		
沖 縄			05/17				

		② 畑作物(イネを除く)	③ 果樹(チャを含む)
北 海 道		赤さび病(コムギ): 06/21 菌核病, 灰色かび病(マメ類): 07/16	腐らん病(リンゴ): 06/02
東 北	青 森		モニリア病(リンゴ): 04/14
	秋 田		ハダニ類(リンゴ): 06/17, 斑点落葉病(リンゴ): 07/16 灰星病(オウトウ): 05/07
関 東	茨 城	ハスモンヨトウ(畑作物): 08/31	果樹カメムシ類(カキ, カキンツ類): 09/08 ミカンハダニ(温州ミカン): 05/27, チャノコカクモンハマキ(チャ): 08/20, 果樹カメムシ類(カキ, カキンツ類): 08/30 モモハモグリガ(モモ): 04/01 モモハモグリガ(モモ): 07/23 かいよう病(中晩柑類): 03/03 クワシロカイガラムシ(チャ): 08/08, 09/08
	栃 木	ハスモンヨトウ(ダイズ): 09/28	
	群 馬	ハスモンヨトウ(ダイズ): 09/08	
	千 葉	ハスモンヨトウ(ダイズ): 09/29	
	神 奈 川		
東	山 梨		
	長 野	赤かび病(ムギ類): 04/30	
東			

東 海	岐 阜 愛 知	ハスモンヨトウ(ダイズ)：08/20 赤かび病(ムギ類)：04/15 ハスモンヨトウ(ダイズ)：09/10	
	三 重	赤かび病(コムギ)：04/21 ハスモンヨトウ(ダイズ)：09/08	かいよう病(カンキツ類)：08/19
近 畿	滋 賀 京 都 大 阪	ハスモンヨトウ(ダイズ)：08/25 ハスモンヨトウ(マメ類)：08/09	クワシロカイガラムシ(チャ)：04/23 アブラムシ類(カンキツ類)：05/20, ミカンハダニ(カンキツ類)：06/07, ペト病(ブドウ)：07/08
	兵 庫 奈 良	ハスモンヨトウ(ダイズ)：08/06, 09/29 ハスモンヨトウ(ダイズ)：09/01	
中 国 四 国	鳥 取 島 根 愛 媛	ハスモンヨトウ(ダイズ)：09/17 ハスモンヨトウ(ダイズ)：08/24 赤かび病(ムギ類)：03/25	果樹カメムシ類(カキ, カンキツ類)：10/05
	福 岡	赤かび病(ムギ類)：04/08 赤かび病(コムギ)：04/19	果樹カメムシ類(カキ, カンキツ類)：09/01
九 州	佐 賀	赤かび病(ムギ類)：04/06 ハスモンヨトウ(ダイズ)：09/21	黒星病(赤ナシ)：06/10, 果樹カメムシ類(カキ, カンキツ類)：09/06
	長 崎	赤かび病(ムギ類)：04/13, 疫病(ジャガイモ)：04/13, ハスモンヨトウ(ダイズ)：09/16	クワシロカイガラムシ(チャ)：07/16, 果樹カメムシ類(カンキツ類)：09/16
	熊 本	イグサシンムシガ(イグサ)：06/11	果樹カメムシ(カキ, 早生温州)：09/29
	大 分	赤かび病(ムギ類)：03/31 ハスモンヨトウ(ダイズ)：08/01	かいよう病(カンキツ類)：03/31, 果樹カメムシ類(カンキツ類, カキ, ナシ)：10/04
	宮 崎		炭そ病(チャ)：08/23, 果樹カメムシ類(カキ, カンキツ類)：09/27
沖 縄	縄	サトウキビノチビアザミウマ(サトウキビ)：04/01	チャノキイロアザミウマ(カンキツ類)：04/30
④ 野菜			
北 海 道		コナガ(アブラナ科野菜)：06/02	
東 北	青 森	コナガ(アブラナ科野菜)：05/28	
	岩 手	コナガ(キャベツ)：06/01, うどんこ病・褐斑病(キュウリ)：07/30	
	秋 田	コナガ(キャベツ)：06/03	
	福 島	ハスモンヨトウ(野菜)：09/14	
関 東	茨 城	ペト病(ネギ)：05/21, ハスモンヨトウ(野菜)：08/31	
	栃 木	ハスモンヨトウ(野菜)：09/28	
	群 馬	ハスモンヨトウ(野菜)：09/08	
	埼 玉	ハスモンヨトウ(野菜)：09/28	
	千 葉	ハスモンヨトウ(野菜)：09/29	
東 京	東 京	コナガ(アブラナ科野菜)：07/30, ハスモンヨトウ(野菜)：09/21	
	神奈川	ハスモンヨトウ(野菜全般)：09/08, ハダニ類(露地ナス)：06/24, ワタヘリクロノメイガ(抑制キュウリ)：09/30	
北 陸	新 潟	コナガ(アブラナ科野菜)：07/01	
東 海	岐 阜	アザミウマ類(野菜)：06/25	
	愛 知	ペト病(タマネギ)：03/01, ハスモンヨトウ(野菜)：09/10	
	三 重	ハスモンヨトウ(野菜)：09/08	
近 畿	大 阪	ペト病(タマネギ)：04/28, ミカンキイロアザミウマ(ナス(ミズナス))：05/20, ハスモンヨトウ(野菜)：09/24, ワタヘリクロノメイガ, うどんこ病(キュウリ)：08/08	
	兵 庫	ハイマグラノメイガ(アブラナ科野菜)：07/29, ハスモンヨトウ(野菜)：09/29	
	和歌山	かいよう病(カンキツ類)：07/05	
中 国 四 国	鳥 取	ハスモンヨトウ(野菜)：09/17	
	島 根	白色疫病(ラッキョウ)：02/15, ハスモンヨトウ(アブラナ科野菜)：08/24	
	高 知	トマト黄化えそウイルス(野菜)：07/27	

九州	福岡	うどんこ病(イチゴ育苗床)：07/30
	佐賀	うどんこ病(イチゴ)：09/10, ハスモンヨトウ(野菜)：09/21
	長崎	炭そ病(イチゴ)：07/16, ハスモンヨトウ(野菜)：09/16
	大分	灰色かび病(冬春トマト, キュウリ, イチゴ)：03/31
沖縄	宮崎	斑点病(ピーマン)：02/23, かいよう病(カンキツ類)：07/26
	縄	ハダニ類(施設ナス)：01/07, コナガ(キャベツ, ダイコン)：04/01, うどんこ病(施設キュウリ, スイカ), ハダニ類(キュウリ, メロン)：04/30
⑤ 花き類		
東北	福島	ハスモンヨトウ(花き類)：09/14
関東	群馬	ハスモンヨトウ(花き類)：09/08
	東京	ハスモンヨトウ(花き類)：09/21
東海	岐阜	アザミウマ類(花き類)：06/25, ハスモンヨトウ(花き類)：08/20
	愛知	ハスモンヨトウ(花き類)：09/10
	三重	ハスモンヨトウ(花き類)：09/08
近畿	滋賀	ハスモンヨトウ(花き類)：08/25
	京都	ハスモンヨトウ(花き類)：08/09
	大阪	ミカンキイロアザミウマ(花き類)：05/20, ハスモンヨトウ(花き類)：09/24
	兵庫	ハスモンヨトウ(花き類)：09/29
中国	奈良	ハスモンヨトウ(花き類)：09/01
	鳥取	ハスモンヨトウ(花き類)：09/17
四国	高知	トマト黄化えそウイルス(花き類)：07/20
	九州	ハスモンヨトウ(花き類)：09/21
九州	佐賀	ハスモンヨトウ(花き類)：09/21
	長崎	ハスモンヨトウ(花き類)：09/16
(2) 特殊報(数字は発表月日)		
● 普通作		② 果樹
東北	宮城	縮萎縮病ウイルス(コムギ)：05/27
関東	神奈川	ホタルハムシ(インゲン, ラッカセイ)：06/24
	山梨	モモハモグリガ(モモ)：04/01
東海	静岡	カキノヒメヨコバイ(カキ)：04/06
	愛知	カキノヒメヨコバイ(カキ)：04/06
三重	三重	クロフタモンマダラメイガ(ナシ)：05/27
	愛媛	縮萎縮病ウイルス(コムギ)：05/27
中国	愛媛	赤かび病(ムギ)：03/25
九州	福岡	アカマルカイガラムシ(カンキツ類)：05/10
	大分	オオタバコガ(ダイズ)：03/29
九州	鹿児島	うどんこ病(ダイズ)：06/01
	鹿児島	かいよう病(カボス, 甘夏等)：03/31
沖縄	沖縄	<i>Oidium</i> sp. によるうどんこ病(カンキツ類)：06/03
	沖縄	炭そ病(パパイヤ等)：02/01
③ 野菜		④ 花き類
東北	宮城	トマトサビダニ(トマト)：05/27
	秋田	トマト黄化えそウイルス(キク)：07/01
北	山形	トマトサビダニ(トマト)：04/27
	福島	青かび根腐れ病(トルコギキョウ)：04/27
関東	東京	葉枯線虫病(ブーバルジア)：02/03
	山梨	ブタクサハムシ(ヒマワリ)：02/09
東	長野	えそ病(トルコギキョウ)：10/08
	長野	えそ病(トルコギキョウ)：10/08
北陸	石川	トマトサビダニ(トマト)：07/16
近畿	奈良	トマト黄化えそウイルス(トウガラシ)：06/21
近畿	奈良	トマト黄化えそウイルス(キク, ジニア)：06/21
	奈良	トマト黄化えそウイルス(キク, ジニア)：06/21

中国四国	岡山		べと病(仮称)(ラークスパー)：06/03
	愛媛	炭そ病(イチゴ)：10/21 黄化萎縮病(トマト)：01/18 シストセンチュウの一種(ナス)：02/15	
九州	福岡	アキニレハマキワタムシ(イチゴ)：03/29 ウスモンミドリメクラガメ(レタス)：04/13 黄化葉巻病(トマト)：02/25	イチゴセンチュウ(リンドウ)：03/29 えそ病(キク)：01/26
	佐賀	黄化葉巻病(トマト、ミニトマト)：09/20 灰色かび病(トマト、キュウリ、イチゴ)：03/31 炭そ病(ダイコン)：02/24 トマト黄化えそウイルス(ピーマン)：09/10 Colletotrichum capsici による炭そ病(ダイコン)：06/03	
沖縄	沖縄	コナガ(キャベツ、ダイコン)：04/01	炭そ病(キク)：02/01、ミカンキイロアザミウマ(キク)：09/01

警戒調査を実施した。

沖縄県：前年に引き続き沖縄群島、宮古群島及び八重山群島において侵入警戒調査及び不妊虫放飼による再侵入防止防除を実施した。

2 ミカンコミバエ

沖縄県：前年に引き続き侵入警戒調査を実施するとともに、八重山群島において誘殺剤散布による再侵入防止防除を実施した。

小笠原諸島：前年に引き続き侵入警戒調査を実施した。

3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄及び小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

4 アリモドキゾウムシ及びイモゾウムシ

平成9年12月に発生が確認された鹿児島県上屋久町及び屋久町におけるアリモドキゾウムシ及び屋久町におけるイモゾウムシについては、緊急防除の省令により寄主植物などの移動を禁止するとともに、発生地域において殺虫剤の散布、野生寄主植物の除去などを実施した。

また、奄美群島においてアリモドキゾウムシを、沖縄県においてイモゾウムシ及びアリモドキゾウムシを対象にして、不妊虫放飼等による実験的な根絶防除を実施した。

5 ナシ枝枯細菌病

平成7年に発生が確認された北海道のナシ枝枯細菌病菌については、緊急防除の省令により寄主植物などの移動の規制、消毒、廃棄を実施した結果、本病の未発生が確認されたため、8月末に緊急防除を終了した。

6 天敵増殖配布

果樹の重要害虫であるイセリアカイガラムシ、ルビー

表-4 平成11年農業年度農薬出荷状況(推定)

(単位：t, kL, 百万円, %)

用 途		10 年度出荷 (実績)	平成 11 年度(推定)	
			出荷	対前年比
殺虫剤	数量	136,994	128,000	93
	金額	135,753	133,000	98
殺菌剤	数量	90,995	83,000	91
	金額	95,655	92,000	96
殺虫殺菌剤	数量	38,914	36,000	93
	金額	26,368	30,000	114
除草剤	数量	74,432	71,000	95
	金額	118,454	113,000	95
その他	数量	23,649	22,000	93
	金額	12,635	12,000	95
合計	数量	364,984	340,000	93
	金額	388,865	380,000	98

ロウムシ、ミカントゲコナジラムのそれぞれの天敵であるベダリアテントウムシ、ルビーアカヤドリコバチ、シルベストリコバリの増殖配布を前年に引き続き静岡県で実施した。

IV 農林水産航空事業等

本年度の農林水産航空事業の農業関係実施延べ面積は、3,582 千 ha となった。

本事業の基幹である水稻部門は、実施延べ面積は 827 千 ha、実面積は 429 千 ha で水稻栽培面積の 24% に当たり、関係農家戸数は約 507 千戸、水稻栽培農家の 23% を占め、平均 1.9 回の散布が実施された。剤形別、散布方法別では、本年度は液剤の通常散布 48%、同じく微量散布 30% の割合となった。

畑作・果樹部門は、クリ、リンゴ、ムギ、ダイズ等の

病害虫防除等 13 千 ha であった。

畜産部門は、牧野の施肥等、5 千 ha であった。

ミバエ部門はミバエ類の進入防止防除等が行われ、
2739 千 ha であった。

無人ヘリコプターによる病害虫防除は、276 千 ha。
うち、水稲 254 千 ha、コムギ及びダイズ 22 千 ha とな
った。

V 農薬の出荷状況

平成 11 農薬年度（平成 10 年 10 月～平成 11 年 9 月）
における農薬の出荷は、前年度に比べ数量で 7%減の
340 千 t・k/l、金額では 2%減の 3,800 億円程度と推定
される。

本 会 発 行 図 書

『応用植物病理学用語集』

濱屋悦次（元 農林水産省農業環境技術研究所微生物管理科長） 編著

定価 4,893 円（本体 4,660 円＋税） 送料 340 円 B6 判 本文 506 ページ

植物病理学研究に必要な用語について、植物病理学はもちろん、農薬、防除、生化学、分子生物学などについても取り上げ（約 6,800 語）、紛らわしい用語には簡単な説明を付けそれぞれを英和、和英に分けてアルファベット順に掲載し、また、付録には植物のウイルス、細菌、線虫の分類表を付した用語集です。植物病理学を学ばれる方はもちろん、広く植物防疫の関係者にご活用いただきたい用語集です。

お申し込みは前金（現金書留・郵便振替）で直接本会まで。

本会発行のシリーズ図書：植物保護ライブラリー

各冊 B6 判 定価 1,326 円（本体 1,263 円＋税）

「イネいもち病を探る」－研究室から現場まで－	小野小三郎 著 口絵カラー 2 頁	送料 240 円 本文 174 頁
「作物の病気を防ぐくすりの話」	上杉 康彦 著 本文 121 頁	送料 240 円
「虫たちと不思議な匂いの世界」	玉木 佳男 著 本文 187 頁	送料 240 円
「日本ローカル昆虫記」－虫の心・人の心－	今村 和夫 著 本文 220 頁	送料 310 円
「ミクロの世界に魅せられて」－植物病原細菌の虚像と実像－	後藤 正夫 著 本文 221 頁	送料 310 円
「茶の効用と虫の害」	刑部 勝 著 本文 166 頁	送料 240 円
「リンゴ害虫の今昔」－害虫防除と環境－	奥 俊夫 著 本文 270 頁	送料 310 円

ご購入は、直接本会「出版情報グループ」に申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい
(社)日本植物防疫協会 〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11 Tel (03)3944-1561 Fax (03)3944-2103